

＜第2回 横浜市文化財施設のあり方検討委員会 議事録＞

日時	平成23年8月4日（木）14時00分～17時30分
場所	横浜市歴史博物館 2F研修室
開催形態	公開（施設見学は非公開）
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 澤野由紀子（聖心女子大学文学部教授）、嶋田昌子（横浜シティガイド協会副会長）、 末崎真澄（（財）馬事文化財団理事・馬の博物館学芸部長）、 鈴木真理（青山学院大学教育人間科学部教授）、永池啓子（横浜市立小学校長会代表）、 長島由佳（横浜市PTA連絡協議会会長）、西野公晴（中小企業診断士）、 桧森隆一（嘉悦大学経営経済学部教授・副学長）、平川南（国立歴史民俗博物館館長）、 吉田鋼市（横浜国立大学大学院教授）</p> <p>【事務局】 鈴木（生涯学習担当部長）、中田（生涯学習文化財課長）、重松（文化財係長）、 天野（文化財係職員）、</p> <p>【公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団】 高村（理事長）、金子（副理事長）、村井（理事）、竹前（事務局長）、 鈴木（横浜市歴史博物館館長）、平野（横浜市歴史博物館副館長）</p> <p>【コンサルタント】 山路商事（株） 山路、田代</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設視察（横浜市歴史博物館） 2 前回の報告 3 検討資料説明 4 あり方検討についての意見交換 5 その他
資料	資料1 指定管理施設の利用者実績（推移） 資料2 常設展示室・企画展示室の観覧者数（推移） 資料3 近隣施設・類似施設の入場者数と観光入込客数（推移） 資料4 全国の登録・相当博物館数と入館者数（推移） 資料5 事業収支と資料収集保管事業費（内訳） 資料6 収蔵資料数（年度毎の割合） 資料7 平成21年度指定管理施設事業収入（内訳） 資料8 財務状況分析 資料9 横浜市ふるさと歴史財団収支比較 資料10 告知・宣伝方法と来館者の情報入手元 資料11 人気のあった企画展と成功要因 資料12 博物館等施設の分布と相違点・登録基準 資料13 横浜市ふるさと歴史財団組織図と指定管理施設の学術系職員 資料14 新聞等メディアへの掲載一覧 資料15 文化財施設建設の基本的考え方

<会議の開催>

生涯学習文化財係長から、以下のとおり事前確認があった。

- ・会議開催の確認。(本日委員 10 名全員出席のため、委員の過半数が出席しており、横浜市文化財施設のあり方検討委員会設置要綱第 6 条を満たす。)
- ・会議公開の了承。(会議は原則公開とし、施設見学のみ非公開とする。)

<委員自己紹介> (前回欠席のため)

- ・永池啓子氏＝横浜市立小学校校長会を代表して出席している。学校教育に貴重な資料を活用させて頂くという立場で意見を申し上げたい。

<横浜市歴史博物館館長挨拶>

横浜市歴史博物館館長から、以下のとおり挨拶があった。

- ・平成 23 年 7 月より横浜市歴史博物館館長に就任した。現在の本職は、国学院大学文学部の教授である。また、聖心女子大学にも 20 年ほどお世話になっている。
- ・国学院大学大学院院長を務めていた際、大学院に博物館学専攻コースを設立した。
- ・専門は日本古代史である。

■主な議事内容

1 施設視察(横浜市歴史博物館)

横浜市歴史博物館副館長が施設案内を行った。

<研修室・講堂・その他>

- ・研修室(約 60 人収容)は一般利用も可能。
- ・講堂(184 席)では講演会等が行われる。一般利用も可能。施設の老朽化が課題。
- ・休憩室は以前レストランだったが、経営不振で業者が撤退し、現在は休憩室として自動販売機を設置している。
- ・エントランスホールでは、年 2 回「エントランスコンサート」が開催される。
- ・ミュージアムショップでは、展覧会関係書籍や関連グッズの販売、オリジナルグッズの開発販売しており、財団収益事業の核となっている。近年、客単価は減少している。また、利用客から、場所が分かりにくいとの意見もある。
- ・大塚・歳勝土遺跡公園(野外施設)の案内役として、約 60 名の市民がボランティアとして登録している。
- ・掲示板のスペースは大きいので、本市施設と神奈川県・関東・その他地域のポスターを掲示し宣伝を行っている。
- ・廊下が広いため、写真展等を企画したいと考えているが、目的外使用の許可が必要となる。

<常設展示室>

- ・常設展示室の中央にはスタディサロンを設け、歴史クイズや検索機能のある PC を設置している。また、机や椅子を移動させ、新展示物の公開やイベントを年 6 回開催している。
- ・映像コーナーでは既成作品やオリジナル作品の鑑賞が可能。

- ・歴史劇場（80席）では、原始から近現代までの横浜の歴史を3面スクリーンにて上映し、案内ロボット（レックル＝尾長鶏のキャラクター）が解説を行っている。映像が17年前のものであることや設備の老朽化が課題。
- ・歴史年表（世界史、日本史、横浜史）は人気がある。購入したいとの声を頂くが、著作権等の課題があり実現は困難である。文字部分だけは使えるので、小学生用の資料に作り替えている。
- ・通史展示室では、原始から近現代までを6つのブースに区切り展示を行っている。
- ・発掘遺跡268点（実物）を手で触れる形で展示している。当初はもっと身近な展示であったが、損傷や盗難があるため、一部アクリルケースで展示している。
- ・大塚・歳勝土遺跡は発掘調査終了後、国史跡の指定を受けた。大塚遺跡は現在では1／3程度になっているが、模型では破壊される前の状態（全貌）を復元している。（古代ブース）
- ・横浜市歴史博物館は学校教育との連携を図っている。特に小学校4年生は郷土学習において吉田新田を取り扱うため、どの様にして新田開発されたか等を想像し、模型を展示している。（近世ブース）
- ・東海道の神奈川宿・桜屋の1／10模型は非常に精巧であり、当時の人々が見た景観をリアルに体感できる。桜屋は安藤広重「東海道五十三次」にも描かれている。この模型はかなり高価で当館随一であろう。ちなみに、現神奈川区台町にある田中屋は、桜屋を継いだものだと言われている。（近世ブース）
- ・開館当初は開港期前までの資料展示であったが、横浜の歴史を通観できるよう、開港期から近現代までの資料展示を概観的に行っている。（近現代ブース）

<企画展示室>

- ・現在は、「風景を伝える、持ち帰る 絵はがきあれこれ」を開催している。
- ・企画展示室は床面積362㎡しかない。十分な展示には1,000㎡は必要である。
- ・企画展は年7回開催している。

<図書閲覧室>

- ・閲覧図書数は限られているが、PCでの検索が可能である。また、展覧会に合わせ関係図書を置くこともある。

<体験学習室>

- ・かつての道具を実際に触れたり、土器づくりの体験が可能である。

<荷解搬入室、燻蒸室、写真室等>

- ・常時環境検査（IPM 総合的有害生物管理）を行っている。
- ・燻蒸処理には、CO₂を利用している。
- ・荷解搬入室から収蔵庫まで資料を運搬する際、廊下がクランクしていること、収蔵庫から展示室へ運搬する際には、一般客も利用する廊下を通らなければならない等、博物館として利用するには建築設計上の問題がある。

<収蔵庫>

- ・考古収蔵庫（517㎡ 4階）、歴史収蔵庫（422㎡ 5階）、特別収蔵庫（88㎡ 5階）、民俗収蔵庫（510㎡ 6階）を有している。
- ・各収蔵庫は2層化が可能なように天井が高い。考古収蔵庫は一部を2層化した

民俗収蔵庫は実現できていない。収蔵庫の容量に限界を感じている。

2 前回の報告

事務局から、第1回議事録を用いて説明があった。

<修正事項等>

- ・特になく、了承された。

3 検討資料説明

事務局から、資料1～15を用いて説明があった。

<質疑応答>

(平川委員)

- ・本委員会では、あり方検討施設4館の設立時の基本理念を再確認し、その理念に沿って運営されているか、現状を見てどこに問題があるか検討するものである。そして最終的には時代区分等を整理する必要がある。その意味では、資料15は配布資料の最初に置かれるべきである。

(吉田委員長)

- ・資料15以外に、設立に関する資料はないのか。
→後の議題の際に詳しく説明する。(文化財係長)

(末崎委員)

- ・資料5「資料収集保管事業の内訳」において、あり方検討施設4館ともその他(保管等)の割合が大きいのは、どの様な事情からか。
→その他には、保管整理に係る人件費、外部倉庫賃借料等が含まれる。(文化財係職員)

(吉田委員長)

- ・資料3「近隣施設・同類施設の入館者数の推移」において、他と比較し、あり方検討施設4館は入場者数が低いことは残念である。

(西野委員)

- ・周辺の入込客数は増加しているにも関わらず、横浜都市発展記念館や横浜ユーラシア文化館の入館者数は減少していることが分かる。近隣施設には入館者数が増加している施設もあり、検討施設は周辺ポテンシャルと反比例しているに見える。
- ・あり方検討施設4館の理念及びビジョンが何かを再確認し、「誰に、何を、どのように」のフレームワークで検討していきたい。

(吉田委員長)

- ・理念が一番大事であり、個人的には理念に叶っていれば良いとも思う。しかしながら、たとえそうであっても理念だけでは駄目で、入館者数の減少など難しい問題についての改善策を検討していくことになるだろう。

(鈴木委員)

- ・あり方検討施設4館において、ボランティアについての資料(人数、活動成果等)を提示して頂きたい。アピールポイントはもっとあるのではないか。
- ・10年ほど前にボランティアを導入したはずだが、その時点では後発だったがために、むしろ新しいこともやっていたのではないか。

- ・各館では様々な良い試みを行っているだろう。その様な資料も提示して頂きたい。

(嶋田委員)

- ・各館ともボランティアの方が活躍されている。
- ・横浜市歴史博物館のボランティアは、屋外施設の案内が主であるので、展示から外されているのではないかと。

(平野副館長)

- ・横浜市歴史博物館のボランティアには2種類あり、①遺跡ガイドボランティア（約60名）②活動支援ボランティア（約30名）である。
- ・今後は神奈川県立歴史博物館のように、展示室のガイド解説等の活動も行って頂くボランティアの採用も検討している。

(永池委員)

- ・横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館は好立地で、子どもたちが利用する立場から見ると色々と授業に活用できると思ったが、如何せんお客さんがいない。学校側から見ても知名度が低く、現状では使い勝手が悪いのもったいなく思う。
- ・各館が散在している感がある。あり方検討の4館を、学校教育も含め、いかに関連づけていくかを議論するべきである。
- ・歴史博物館は学校のカリキュラムに位置づけられており、子どもたちは必ず来る。その際にユーラシア文化が見られるような工夫やカリキュラムとの関連づけが図られるならば、より学校教育に活用できることに加え、必ず来館するようになるだろう。

(平川委員)

- ・資料6「収蔵資料数（年度毎の割合）」において、横浜都市発展記念館への資料の寄贈寄託の割合が少ないことは課題である。本来、近現代資料は市民が一番多く所有しているものであり、その市民からの寄贈寄託により豊かな展示が可能になることが、横浜都市発展記念館の理想像である。市民にもっと呼びかけるべきである。
- ・一方、横浜ユーラシア文化館は個人コレクションから始まったということもあり、その資料は体系化がなされていない。さらに寄贈寄託に頼ってもユーラシア文化の範囲は広く体系化できるものではない。足りない所は市が意識的に購入して体系化を図るべきである。

(吉田委員長)

- ・資料6のデータは、館によって資料の絶対数が全く違うので、そのあたりもきちんと見ていきたい。

(長島委員)

- ・博物館は、「また行きたい」と思わせる魅力が重要である。
- ・横浜市歴史博物館には、自分の子どもも何度もお世話になってきた。展示・収蔵資料は豊富であるが、もったいないと思う。また、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館は1回で十分とってしまう。魅力資源はあるが、発展性がないと感じている。
- ・市民の立場で見れば、一等地にあり、財政上制約があるにも関わらず、利用されていない状態で横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館があるのは残念に思う。
- ・横浜開港資料館と横浜都市発展記念館が一体化すれば、魅力が出て、多くの方に見てもらえるのに、と素朴に思う。

(吉田委員長)

- ・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館は施設規模が小さく、学校利用などが難しいことも課題である。

(嶋田委員)

- ・横浜都心部は、文化施設が点在していることが横浜らしさでもある。枠がある中で、横浜らしさを生かしたやり方を考えたい。
- ・他の施設とあいのりする面白さや、回遊性の図り方等、点在していることを活かした今後のあり方を検討することも重要である。
- ・父が亡くなった時に県と市の各施設に寄贈したが、寄贈品の内容と行き先を考えると、今だったら違う施設に行っていたかも知れないと思う。横浜開港資料館が有名なため、寄贈寄託資料が横浜開港資料館へ集中し、本来の時代区分と異なる収集となっていることも考えられる。

→寄贈寄託された資料については、どの館に収蔵することが相応しいかを各館で話し合っていて聞いている。(吉田委員長)

(平川委員)

- ・館名を変更することも考えたい。
- ・横浜都市発展記念館について、都市は発展するものだけではないし、何を記念しているのかも分からない。それぞれの言葉が相応しくないと思う。
- ・そこを整理しないと、3館の役割分担が見る側に伝わらない。

(吉田委員長)

- ・資料14「新聞等メディアへの掲載一覧」において、企画展の回数はほぼ同じであるにもかかわらず、掲載数に差が出ている。後発のハンディキャップだろうか。

(末崎委員)

- ・資料12「博物館及び資料館分布図」を見ても、施設が中区に集積していることが分かる。そこで横浜の特色を生かし、中区に立地する各施設が連携してPRしていこうという話が20年程前からあった。
- ・江上波夫氏をご案内した際に、馬の博物館の立地する根岸競馬場跡地のような広々とした場所でユーラシア文化を紹介したい、というお話を頂戴したことがあった。
- ・歴史博物館のような前時代や、ユーラシアの広範な文化を総合して4館を考えるには、それぞれの館の役割・特色を明確にした上で、施設の統合等についても考えるべきである。

4 あり方検討についての意見交換

事務局から、資料15を用いて説明があった。

- ・平川委員のご指摘通り、この資料が最も大事であるが、最後に置いたのは本日の議題順に資料を閉じた結果であり、お詫び申し上げたい。
- ・横浜開港資料館と横浜都市発展記念館の時代区分は、条例上と実際の運用上の取扱いが異なり、きちんと整理されているとは言い難い。
- ・横浜都市発展記念館は15,000㎡で構想されていたが、いろいろな検討経緯があり、結果として旧市外電話局(都市発展・ユーラシア併設)を活用する形となったため、

小規模の施設となった。建物全体でも約 2,900 m²の延床面積しかない。

・横浜ユーラシア文化館も、旧市外電話局の一部を使った暫定的展示の状況である。

<質疑応答>

(桧森委員)

・あり方検討施設 4 館では、調査研究は共同して行われているのか、それとも各館別か。

→各館が個別に行っている。例えば、横浜市歴史博物館では近現代史の調査研究は行っていない。(平野副館長)

→本来各館は別々の指定管理施設であり、本来は個別である。現在はたまたま一つの財団が担っているため、合同での調査研究を行える可能性もある。(生涯学習担当部長)

(長島委員)

・入館者数の増加を図ることを検討していく中で、財政状況について考慮は必要か。

→財源は全くないわけではないが、かけたくないという立場である。(生涯学習担当部長)

→あり方検討委員会としては、財源のことはあまり考慮する必要はないのではないかと考えている。(吉田委員長)

→新たな施設建設は考えていない。施設統合等は考えていただいて結構である。(生涯学習担当部長)

→まずはアイデアをどんどん出していただきたい。(生涯学習担当部長)

(長島委員)

・学術系職員の数も限られている現状において、調査研究が合理的に行われていない。

(鈴木委員)

・「文化財施設」と「博物館等」では概念が異なる。どう区分しているのか。4 館とも立派に博物館であるが。

→文化財施設とは通称として横浜市が使用している言葉である。4 館に絞った検討であるために使用した言葉である。(文化財係長)

(平川委員)

・「博物館」、「資料館」、「記念館」、「文化館」と名称がそれぞれ異なるが、博物館等施設という概念で理解して構わないか。

→結構である。(生涯学習文化財課長)

→基本的には何を言っても構わないので意見をどんどん出した上で、どう取りまとめを行うかについても、次回以降、議論したい。(吉田委員長)

(桧森委員)

・あり方検討施設 4 館は、将来的にも一つの団体が指定管理者を続けるのか。

→4 館のままであるか分からないが、本委員会の結果、現在の事業を止める、もしくは現在とは異なる事業内容を行うべきという提言がなされれば、当然、別の団体が指定管理者となることも考えられる。歴史に関わり、事業内容をそれほど変えずに集客が図れるならば、ふるさと歴史財団が指定管理者であることがふさわしいが、事業内容に変更があれば、別の団体になることもあり得る。(生涯学習担当部長)

・あり方検討施設 4 館を、一つの博物館として考えてしまうこともできるのか。

→検討結果によっては考えられる。(生涯学習担当部長)

(西野委員)

- ・例えば「横浜博物館1・2・3・4」といった感じか。

(平川委員)

- ・私はまだ現時点ではそうした提案は出さない。むしろ、各館の設置目的を鮮明にして、それぞれの個性を発揮した方が良い。もちろん、横浜市歴史博物館には通史としてトータルな展示の必要性もある。

(吉田委員長)

- ・各施設にはそれぞれ設置経緯もあり、簡単に歴博1・2・3・4とはいかない。

(西野委員)

- ・フレームワークをきちんとした上で、各人がどこの部分をお話しているのか分かるような議論が必要だ。そうでないと断片的な話だけになってしまう。
 - ・配布資料は事前に目を通して委員会に臨めるよう事務局にはお願いしたい。
- 次回は本日受け取った資料を熟読して委員会に臨んでいただきたい。(吉田委員長)
- ・トップにある方の気持ちによって活性化の議論が違ってくる。各館の代表者の意見も直接お聞きしたい。

(平川委員)

- ・各館がこれまで何を一番強調してきたのかを表明いただき、それで良いのかを我々の立場から検討してみたい。
- ・施設側ですでに気づいていることもあるのではないかと。また、頭の中で思っているが市民に伝わっていない要因もあるのではないかと。
- ・説明者は館長でなくても良い。設置目的をきちんとマネジメントしている方であればよい。

(桧森委員)

- ・そうしたディスカッションを一度はしなければならない。
- ・追加作成すべき資料も少ないので、あまり時間を置かずに次回を開催した方がよい。

(吉田委員長)

- ・次回検討委員会では、設置目的・理念とその遂行についての現状と課題を、各館10分程度お話いただいた上で、双方でディスカッションする。
- ・そのために、委員も課題になりそうな項目を事前に考えてお集まりいただきたい。

5 その他

第3回横浜文化財施設のあり方検討委員会

日時＝平成23年8月19日(金)10:00～12:00 予定

場所＝関内で開催する。具体的な場所は後日連絡する